

保育かながわ

発行所
横浜市神奈川区沢渡4の2
一般社団法人
神奈川県保育会
発行人
萩原敬三
題字
故内山岩太郎筆

平成二十七年度 第五十九回全国保育研究大会

小田原駅から新幹線の各停
で二十七番目の駅が今大会の
玄関口となる新山口駅。しか
しながら事前に検索すると乗
り換えを含めて所要時間が随
分とかかることが分かり、結
局小一時間の空の旅を選びま
した。山口市空港から連絡
バスで会場がある山口市内
に入りましたが、この選択が功
を奏し、比較的快適に到着す
ることが出来ました。新山口
から電車移動した本県諸先輩
方は、単線で三〇分間隔の満
員電車にヘトヘト。また、今
大会では定員が少なかったか
らなのか、本県の参加希望者
の中でもキャンセル待ちの方
が続出し、大会運営の難しさ
と移動手段の確保がいかに大
切かを改めて実感しました。

そんな思いから始まった、
第五十九回全国保育研究大会
が、平成二十七年十一月十一
日から十三日にかけて山口市
山口市にある山口市民会館を
主会場に全国より約千五百名、

神奈川県からは発表者を含め
て十四名の参加者を数え盛大
に開催されました。



初日は、オープニングとそ
の後に式典が催され、開催地
保育協議会会長のあいさつ、
児童憲章の朗読、物故者への
黙祷。主催者である全保協会
長などからのあいさつの後、
来賓者からの祝辞などがあり
ました。なお、今までの大会
では経験がありませんでした
が、今回は第九十七代内閣総
理大臣の安倍晋三氏からのビ
デオレターが上映されました。

そう言われれば安倍首相は山
口県の出身だと思いきやまし
たが、内緒の話として突然の
サプライズに驚き、内容は全
く耳に入ってきませんでした。
続いて表彰式が行われ、会
長特別感謝状を含め全国で二
百五十八名の方が表彰され、
神奈川県からは六名の方々が
栄誉ある会長表彰を受けてそ
の功績が称えられました。式
典の最後に大会宣言が読み上
げられ、参加者の熱い拍手に
より採択され開会式が滞りな
く終了致しました。

その後、厚労省雇用均等・
児童家庭局保育課より保育行
政の動向と課題についてと題
しての行政説明と全保協会長
より全保協の取り組みなどの
基調報告がなされ一日目が終
了致しました。

二日目は好天の中、全十一
の分科会を四会場に分け、各
会場で熱心な研究発表などが
行われました。また、神奈川
県からは第二分科会の「配慮

を必要とする子どもや家庭へ
の支援について」とのテーマ
で藤沢市公立保育園のお二人
の保育士の先生より発表があ
りました。

最終日の三日目は雨模様
の中、記念講演と次回開催地
の徳島県からのあいさつが行
われ、全ての日程が終了しまし
た。なお、今大会は冒頭に記
載したとおり、参加者の移動
において参考になる場面があ
りました。その為、次年度に
行われる関プロ大会に置き換
えて対応策を検討する機会を
設けるなど、特に参加者の移
動手段において最善を尽くす
決意をした大会となりました。



ポストの敷設保育園を

座間市 あゆみ保育園

園長 高松 一枝

この度、「保育の思い出」と

いうテーマを頂き、私が保育園をはじめた頃から思い出してみました。昭和五十年十二月頃、現在あゆみ保育園のある場所に、六帖と十二帖のプレハブを建て、無認可保育園を設立し、産休明けからの保育を始めました。その頃も保育園は不足していました。昭和五十一年頃、神奈川県知事の長州一二様が「ポストの敷設、保育園を」と提唱されて、「無認可にも補助金を」とおっしゃいました。当時の座間市長の本多愛男様が「市も補助金を出しましょう。」と決定され、保育園の利用家庭からの保育料は少なく、二十名定員として、県と市からの補助金は涙が出る程うれしかったです。次に神奈川県は、「無認可を認可していこう」という方針が出されました。私は子どもたちの環境の為に、認可施設の設立を目標としており

ましたので、さっそく申請の手続きをはじめました。家族はもちろん、小学校のPTAの多くの友人ママたちがお手伝いしてくれました。

認可保育園の建設が完成、昭和五十三年四月一日、保育目標「思いやりのある元気な子ども」を柱に、六十名定員で開園しました。無認可保育園の頃は、産休明け保育をしていました。当時は、一ヶ月半でお母さんたちは職場復帰でした。六帖のお部屋は、0歳児保育、十二帖のお部屋は、一歳児から五歳児の縦割り保育でした。手をつないでお散歩、コーナー遊び、運動会の練習、そして給食の野菜の皮むきや人参・ジャガイモを切るのは五歳児の女の子。給食のお手伝いが大好きで、保育園に来ているお子さんいまして。この当時の経験を生かして、保育目標の「思いやり」は、縦割り保育を計画しました。縦割り保育は、保育士のコミュニケーションが大切です。「元気な子ども」は、元気に活動すること、おいしい

給食や手作りのおやつ工夫です。

認可されたあゆみ保育園が発して昭和五十六年のある日、民間保育園の園長と座間市長の本多様とお話する機会がありました。市長様より「何か要望がありますか」と聞かれました。当時は、受け入れに余裕がありましたので、座間市保育会の会長柳瀬こう先生が私たちを代表し、「市長さん、私たちは無認可の時、産休明け保育をしていました。ぜひ、産休明け保育をお認め頂きたいのです。」とお話されました。実は、座間市内の民間保育園は、自宅を開放したり、プレハブを建てて保育をしたり、柳瀬先生はお寺の境内で保育されたりと、どちらの園も無認可の経験が有りました。市長様は、当時の児童課の職員様に要望を伝えてくださいました。そしてその年、産休明け保育は始まりました。

紙が色水を吸収するように、どんどん沢山のことに興味を持ち吸収していきます。園外保育を沢山することの大切さを、私自身の幼い頃の経験から感じておりました。春は、保護者の皆さまの親睦と親子のふれ合いを目標に、大型バスの遠足です。七月に入ると、卒園した小学一年生から三年生までと、四歳児・五歳児による「サマースクール」を行います。現在一年おきに、山梨県と千葉県に行っております。山梨県では、山梨県立愛宕山（アタゴヤマ）少年自然の家」に宿泊、山梨県立科学館で遊びながら体験し、ぶどう狩りやリアモーターカーの見学を楽しんでいます。もう一つの計画は「千葉県立君津亀山少年自然の家」に宿泊し、自然の家の周辺の山を散策し、施設の指導員の方に、おもちやの手作り方を教えて頂き、遊びました。もう一つの楽しみは、「鴨川シーワールド」で、水の生き物について学びショーを楽しみます。いよいよ卒園が近づいた一

月には、四歳児と五歳児の「さよなら遠足」として、大型バスで富士山へ出発します。「ふじてんスノーリゾート」で、スキーやソリ遊びをします。普段から体操教室やダンス教室で平衡感覚を養っていますので、ほとんどのお子さんが直ぐにスキーを滑れる様になりました。楽しそうに何度も滑っていました。



地域との交流については、地域老人会「緑寿会」の皆様と年間六回交流しています。老人会の皆さんは、運動会や発表会に参加して頂き、老人会の方からマジックショーを見せて頂いたりしています。そして、もう一つ大切な地域交流は、情操教育として、そして本物の楽器を見て演奏を

聞くことを目標に、開園から間もなくから、県立座間高校吹奏楽部の皆様に来て頂いています。現在は、ハーモニホルール座間で、園児と高校生とのクリスマスジョイントコンサートを保護者や地域の皆様と楽しんでいきます。これからも地域の皆様や、関係機関の皆様を支えて頂き、保育を充実させていきたいと考えています。

保育の思い出

横須賀市 衣笠保育園
園長 大芝 和枝

「おはよう」「また明日ね」一日一日をここで過ごす子ども達。その一日を、どのように有意義に過ごせるかは、保育士自身の言動に大きく左右されます。保育園は、子ども達にとって、安心して居られる楽しい場所ではなくてはなりません。

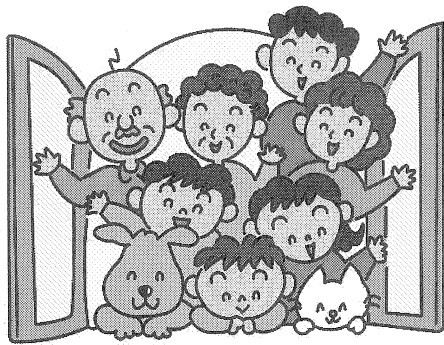
雨の日、風の日、現在は自家用車での送迎も珍しくありませんが、私が保育士駆け出しの頃、今から三十数年前は、

ねんねこ半纏から顔を出しておんぶされた子どもや、大きな傘の中にレインコートに身を包み、長靴をはいた子どもが、親の前や脇をチョコチョコ歩いている姿が思い出されます。晴れた日は、親子でしっかりと手を繋いで歩き、現在のように携帯電話など考えられない時代、急な発熱や体調不良でようやく連絡がとれると、大急ぎで迎えに来てくれる保護者や、家族の姿がありました。「先生お世話になりました」の言葉と、丁寧に頭を下げる姿勢に、大変恐縮してしまいました。

冬は大きなストーブがホール中央に鎮座して、タンク内の灯油の目盛りを気にしつつ、悴む手に息を吹きかけながら、早番さんが部屋を暖めます。ストーブをかこみ読む紙芝居や絵本を見ながら頬をほんのり赤くする子どもたち、エヤコンもパソコンもコピー機もない時代、手書きのガリ版刷りの配布物、今思えば違った良さや、懐かしさを感じてしまふのは、私が年齢を重ねた

からでしょうか？

「大好きな子ども達と一緒にいられる」それが私の保育士になった理由です。始めは、園長先生はじめ初先輩先生方の一挙一動に触れさせて頂き、日々学ばせて頂きました。子どもの観察、明確な記録、感じた疑問を保育士間で共有し、課題を話し合い、解決策を導き出す。どれもみな、経験の浅い自分には、難しいことばかりでしたが、職場の人たちの励ましや、家族の支えのおかげもあり、そして何よりも子ども達の笑顔が背中を押してくれて、ここまでくることができました。



幸い当園は、六十三年の歴史があり、親子三代に渡っての通園も珍しくない土地柄であります。保護者や職員の縁を大切に、お互いが信頼し合い、子ども達の可能性を引き出し、育てていきたいと思うのです。巣立って行った子ども達が連れ立って「先生、元気？ ○○先生もいる？」と、時折顔を見せてくれたり、地域交流の場に、卒園児の保護者の姿があったり、世代間交流で、毎年、楽しみに来てくださるお年寄りの方々が子ども達を温かく見守ってくださいます。小中学校の卒業、入学の晴れの日の立派な姿を、保護者と共に祝福できた時、私はこの上ない感激で胸がいっぱいになります。四季折々、身近な虫や植物に触れて、夢中で遊んだ仲間たちでした。子どもを取り巻く環境が、様々な要因で難しく変化して来てはいますが、どんな時も常に「子どもの幸せ」を考えつつ、関わる大人達が知恵を出し合い、関係機関と連携し、私たち保育者が日々勉強し、

質の向上に努めなければならぬと思っています。

この度、全国保育協議会会長表彰を賜りまして、身に余る光栄であります。これからも、より一層精進して参りたいと存じます。

保育の思い出

愛川町立 高峰保育園
園長 渥美 敏子

今回表彰を受けることになり、三十八年あまりの保育士としての自分を、振り返る良いきっかけとなりました。

昭和五十二年四月、公立保育園の保育士としてスタートしました。初めての勤務先で、幼い頃面倒を見ていただいた恩師に会い、ともに保育の仕事に携わることになりました。幼い頃の自分の事を聞き、懐かしくまた恥ずかしく思うとともに、十年以上前のことを昨日のことにように話す姿に、自分も見習わなければならないと思いました。

しかし、一年目は無我夢中の保育、諸先輩や担任した年

長の子もたちにまで、いろいろなことを教えられて過ごす毎日でした。その後、いろいろな保育園に『異動』という形で勤務しました。障害児の保育にも携わることになり、知識も無いまま研修を重ね、子どもたちと接したことを懐かしく思います。どこで子どもたちと関わっていても、子どもたちと過ごすことは、楽しくそして癒されることばかりでした。最近、保育士三年

目頃に一緒に過ごしていたお子さんといっても、もう二人の子どもを持つお父さんですが、その人と話をする機会がありました。「先生、昔はもっと元気だった。子どもたちへの接し方が丸くなりましたね。」と言われました。褒めこ

した。勤務先に昔からある品々を見ると、一つ一つ懐かしく思うものばかりです。そして、いま通園している子どもたちにも、保育園生活で心に残ることが、ひとつでも多くなるよう接していきたいと思っています。

月一日に定員百二十名(昭和五十九年四月から定員九十名)で開園を致しました。当時、伊勢原市の人口は五万有余でしたが、経済産業の発展に伴い、施設付近には小田急団地、神奈川県公務員団地、住宅団地等も建設され住宅及び市民が増加してまいりました。又、

とになりました。このような保育需要に対して、今後も保育所の整備を図りながら、保育所の機能と役割を十分に発揮させ、社会変動に対応していく必要があると考えております。しかしながら、「保育」というものは、整えられた環境の中で専門保育者と保護者の方々との連携のもとで、子ども達自身が持つ可能性を引き出し、安全・安心の中で立派に育つよう日々の積み重ねが肝要であると思っております。私も保育業界に携わりましてから二十二年目を迎えることになりましたが、保育園に勤務した当初は保育の内容も分からず毎日戸惑いの日々でした。そのような状況の中で初代園長の指導のもと少しずつですが保育者の心構えや保育の大切さを実感できる様になりました。この二十二

とばとりたいのですが・・・やんちゃでいたずらばかりしていた子どもたちだけに、叱ることも多かったのですが、「元気」というより恐かったのでは

「先生はなぜお仕事しないで、保育園で遊んでいるの?」と素朴な疑問を持った子。かくれんぼをしていて、隠れたところで眠ってしまい見つからず、大騒ぎになってしまったことなど、エピソードは盛り

今日まで大好きなことを仕事として続けてこられたことに感謝するとともに、この度の表彰をひとつの節目として、これからの未来をになうであろう子どもたちの成長を手助けできるように、努力していきたいと思えます。

近隣に東海大学医学部附属病院が昭和四十九年十月に完成し、更に三井インダリーストアルバール住宅団地の工事も開始された。これにより勤労地帯の増加と労働力不足に伴い、女性の職場への進出も増加しました。また、専業農家においてもこれらの状況により、企業へ進出し労働力不足は深刻になり、必然的に保育に欠ける乳幼児が多くなつてまいりました。

間は、沢山の子ども達と関わることができました。入園から卒園するまで期間、子ども達の健やかな成長を見ることが保育者としての務めであり、励みとなりました。保育園で

えでもらうことで、継続してきました。迷惑をかけてしまったかもしれませんが、そのおかげで今日に至ることができたことに感謝しています。

現在私は縁あって、自分が卒園した保育園で勤務をしております。保育園が開園したと同時に入園し、卒園をしま

保育の思い出

このことから乳幼児の保育に対する関心と需要は保育所の量的な増大ばかりではなく、機能の質的な変化を求める傾向となり、地区住民からの保育の要望に応えるため、社会福祉法人林台福祉会を設立し、林台保育園を設置経営するこ

とになりました。この二十二

えでもらうことで、継続してきました。迷惑をかけてしまったかもしれませんが、そのおかげで今日に至ることができたことに感謝しています。

現在私は縁あって、自分が卒園した保育園で勤務をしております。保育園が開園したと同時に入園し、卒園をしま

保育の思い出

このことから乳幼児の保育に対する関心と需要は保育所の量的な増大ばかりではなく、機能の質的な変化を求める傾向となり、地区住民からの保育の要望に

とになりました。この二十二

えでもらうことで、継続してきました。迷惑をかけてしまったかもしれませんが、そのおかげで今日に至ることができたことに感謝しています。

現在私は縁あって、自分が卒園した保育園で勤務をしております。保育園が開園したと同時に入園し、卒園をしま

保育の思い出

このことから乳幼児の保育に対する関心と需要は保育所の量的な増大ばかりではなく、機能の質的な変化を求める傾向となり、地区住民からの保育の要望に

とになりました。この二十二

えでもらうことで、継続してきました。迷惑をかけてしまったかもしれませんが、そのおかげで今日に至ることができたことに感謝しています。

現在私は縁あって、自分が卒園した保育園で勤務をしております。保育園が開園したと同時に入園し、卒園をしま

保育の思い出

このことから乳幼児の保育に対する関心と需要は保育所の量的な増大ばかりではなく、機能の質的な変化を求める傾向となり、地区住民からの保育の要望に

とになりました。この二十二

過ごす子ども達には、健康と安全で情緒の安定した生活ができる環境を整え、豊かな人間性を持つ子どもに成長するとともに思いやりのある優しい心に育ってほしいと願っています。保護者の皆様には、保育活動等へのご理解とご協力を頂きながら、現在まで施設長として務めた中で子ども達が大きな事故・事件に巻き込まれることもなく過ごすことができました。

これまでの長い保育者としての経験の中で、私が特に心に残る「保育の思い出」は、施設長となり初めての卒園式でした。施設長として卒園児ひとり一人に証書を手渡す度に心の中で「健康に過ごしてくれてありがとう」「小学校でも楽しく過ごしてね」と思いながら緊張と感動に心震えていたことを思い出します。毎年、入園・進級を迎える子ども達をこれからも大切に見守り、保育園生活が楽しい場所であるように努めてまいります。

最後になりますが、今日ま

で、多くの諸先輩のご指導とご理解を頂き沢山のことを学ぶことができました。また、長年にわたる先人の業績と保育関係者の方々の弛まぬ努力に対し深く敬意を表するとともに、今後も保育事業の振興がより一層促進されなすことを心から期待し、保育に従事してまいります。

保育の思い出

小田原市 山王保育園

保育士 加藤 秀美

憧れの保母さん（学生のころは、保母資格でした）になり、一年目の入園式に臨みました。

保護者の方は皆私より年上で、先輩の先生が笑顔で時には冗談を交えて話している姿を見て、人見知りの性格の私もこんな風に話せるかなとドキドキした日を今でも覚えています。

初めての担当は、一歳児クラス。おませな女の子、元氣な男の子、甘えん坊の子、一人ひとりが可愛くて「しえん

しえん」と呼ばれると、少し恥ずかしく、ひざの上に座ってくる重みがうれしい日々。仕事に関しては、自分の役割をこなすだけが精いっぱいです。一つ先の見通しもつけられず、「何か解らない事があつたら聞いてね」の言葉にも、「解らない事がわからないんです」と答えてしまう有様でした。

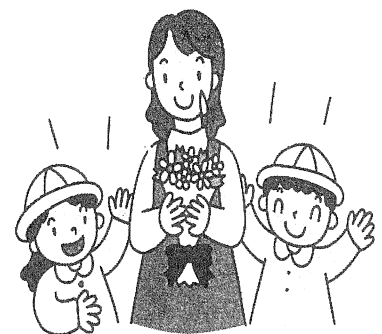
子ども達との関わりも、給食の準備を促しても首を横に振られたり、トイレに誘っても水あそびが始まってしまったりと、先輩と同じ様に声掛けしているのにどうしてと落ち込みました。そんな私を見て先輩は「私も最初はそうだったよ。子どもって見ているんだよ」と声をかけ、忍耐強く色々な事を教えてくれました。それから、先輩の声のかけ方、声の高低の変化、目線の配り方、リーダー以外の役割の動き方を気をつけて見る様にし真似して行きました。

ある日、私の声かけに子どもが耳を傾け、子どもの気持ちに私が向かってくる瞬間を感じられた時は、本当にうれ

しくて、この仕事の楽しさを改めて感じました。そしてなによりトイレトレーニングの成功等、子どもの成長を見る事が出来、共に喜べる日々。行事では、幼児クラスが練習している姿を見て、クラス担任と子ども達の信頼関係を感じました。本番で練習以上の力を出す子ども達に、ただすごい一言でした。先輩の先生が、ピアノも裁縫も絵を描く事が手際よく出来、私も出来る様になるのかなと思いつ、一年が過ぎて行きました。

二年目、三年目は、日々の流れや行事が分かり、次の見通しも自分なりに立て、先輩にも自分から相談出来るようになりました。又その頃、園内研修で乳児保育の色々な事を学ばせて頂き、子どもの生活リズムを整える大切さ、噛み噛みつきは流行する前に止める大切さ、玩具の取り合いでの仲立ちのあり方を事例を交えて分かりやすく教えて頂いたことで、保育士の責任の重さをより深く感じる事が出来ました。

に新入園児の顔を見る度に、「この子達の卒園式を見たい」と思いながら歳を重ねて来ました。いつの間にか、保護者の方より年上になり、育児の相談では、日中の子どもの様子を伝えながらアドバイスを



する機会も増え、若い先生と担任を持ち、子どもとの関わりに悩んでいる姿を見て、私もこうだったよと体験を交えて励ます事が出来るのも先輩の先生が、要領の悪い私を根気よく見守ってくれたからだと今までを振り返り思い出しました。若い時、先輩はなぜこんな事を言うのだろうと感じた事が、時が経ち、同じ立場に立って「あつこれを言いたかつたんだ」と気付く事があり

ます。改めて先輩の保育に対する気持ちを知り、今度は私も伝えていこうと思いました。そして、若い先生からも、今、色々な事を学び、チームワークの大切さを感じています。私にとって、保育の仕事は、こどもたちの成長が見られ、毎日が発見と感動の連続です。

今回栄誉ある賞を頂けた事に感謝し、家族の応援や、保育園でのたくさんのお出合いを大切に、これからも子ども達が、笑顔で楽しく過ごせる様、日々過ごしていきたいと思えます。

「食」の仕事に携わって

鎌倉市 岩瀬保育園
調理員 石渡 小苗

今から数十年前、お彼岸でお墓参りの帰り、お寺のご住職で保育園の園長先生から「給食室で働いてもらえる人を探しているのだけれど、どうですか？」と声をかけていただきました。下の息子がまだ保育園でお世話になっており、急なお話で子育てと仕事

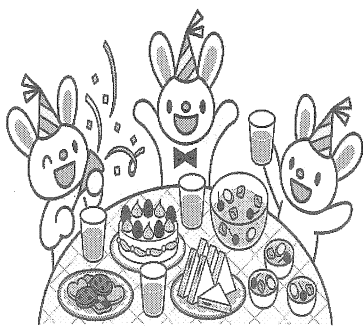
が両立できるのかと不安ですが、お返事ができませんでした。でも二度とないチャンスだと思い、家族で相談して働かせていただく決心をしました。勤務が始まり、給食室での目の回るような忙しさは、何の経験もない私にとってはプレッシャーとの闘いの日々でした。保育園には「料理の鉄人」と言われた大先輩がいらっしゃり、一緒に働けることを光栄に思いました。特にうずら煮豆・おでんは天下第一品で「料理は教わるものではなく自分の仕事の合間に味付けを盗んで覚えるもの」と園長先生にも助言をいただきました。それから無我夢中で勤務をしながら調理師免許を取得し、一人前の調理師を目指してきました。時には仕事と家庭の両立が難しくなり、くじけそうにもなりましたが、園長先生の温かいお気遣いと思いやりある言葉をかけていただいたお蔭で、今日まで頑張っていることができました。

は伸び伸びと保育園生活を楽しんでいきます。四月、新入園児の入園と共に、岩瀬保育園の一年が始まります。六月は普段は仕事で忙しいお父さんが中心の保育参観、この日は親子で楽しそうに子どもと一緒に過ごしながら保育園の給食を味わっていただきます。毎年、子どもたちと一緒に梅ジュースを作るのもこの時期です。七月は給食の試食会、子どもたちが普段食べている給食を保護者の皆さんに試食していただき、どんなことに気を付けて作っているか、子どもが食べやすい工夫についてなど直接保護者の皆さんにお話しします。林間保育（お泊り保育）では、子どもたちが「おいしくなあれ」の掛け声をかけて、年長さんが初めてのカレーライス作り。この一泊のお泊り保育で年長さん是一段と成長する姿が見られます。九月は敬老会でお年寄りとおふれあい、十月は運動会に向けて六月に作った梅ジュースを飲んで最後まであきらめない強い精神力を鍛えます。

運動会の最後は子どもたちががんばる姿に感動して涙が出てしまいます。十一月は「食育フェスタ」、子どもと保育士、そして給食室が一丸となり、大切な「食」について考える一日を作ります。年長さんは保護者の方とお子さんの共同制作で素晴らしい指人形の出展もあります。十二月はお餅つき、給食室は縁の下の力持ちとしてもち米を蒸しあげ、おいしいお餅づくりの大事な役割を担います。つきたてのお餅をあんこや黄粉でいただく、最高に幸福そうな表情の子どもたち。一月・凧揚げ、二月・おゆうぎ会。子どもたちはお化粧をし、衣装を着けてステージに上がります。一年間の締めくくりの行事に子どもたちも保護者も、そして私たち職員も感動する一日です。

仕入れ沢山の料理を作ります。この日は「好きなものを好きなだけ」食べることが出来る日なので子ども達の食欲には職員もびっくりです。衛生面・栄養面に配慮しながら作ったお料理を残さず食べ、満足そうな笑顔を見ると、疲れも吹き飛んでしまいます。地域の方の協力で力を入れている野菜作りも大切な食育、地域でとれた野菜は格別の味です。

この度の受賞は一生の宝物です。子どもたちのかわいい笑顔と大切な成長期に「食」の仕事に携わっていることを誇りに思いながら一日・一日を大切に、これからも頑張ろうと思えます。本当にありがとうございました。



子どもの体力作り研修

平成二十七年九月八日に、神奈川県立体育センターにおいて「子どもの体力作り研修」が開催されました。

講師には神奈川県教育局指導部保健体育課学校体育指導グループ指導主事の斎藤祐介氏に「多様な動きを経験させるための指導の工夫」というテーマでご講演をいただきました。

研修では初めての会場でしたが、当日は雨の降る中沢山の先生方にご参加いただきました。また、研修後半は、実技指導がある研修ということで若い男性保育士の先生も多く参加されていました。

今回の研修は十一月に県内の保育所・幼稚園、小・中学校、高等・中等教育学校及び特別支援学校の主幹・教諭、養護教諭の参加で行われる「平成二十七年健康・体力づくり推進フォーラム」の前

アプローチとしての研修でもありました。

保育所は、管轄が違うため、小学校との連携がうまく取れていなかった事等があり、合同フォーラムで、それらの解消につながるのではと期待されています。



前半は本館会議室にて講義がありました。幼児期の運動遊びは「丈夫な身体をつくる」「体力・運動能力の向上」「強く優しい心を育む」「社会適応能力」「脳の発育」等の効果が期待され、健康・表現・言葉・

環境・人間関係の五領域全てに関わる重要な活動である。発達段階ごとに経験しておきたい遊びの例としては、三歳児は砂遊び・遊具遊び・ごっこ遊び。四歳児は鬼ごっこ・なわとび・ボール遊び。

五歳児はスポーツ種目を基にした遊び・伝承遊び等がある。次に、幼児期運動指針(文部科学省ホームページにてダウンロード出来ます)について三つのポイントからお話を聞きました。

幼児期の運動発達の特徴として、動きの種類が多くなる(動きの多様化)事と、動きが上手になる(動きの洗練化)事がある。

ポイント①「多様な動きが経験出来るように様々な遊びを取り入れる」いろいろな種類の動きを幅広く経験出来るような遊びの設定や用具の工夫をする。

ポイント②「楽しく体を動かす時間を確保する」幼児は様々な遊びを中心に毎日合計一時間以上、楽しく体を動かすことが第一で散歩、お手伝

い等も含めた動きをする。ポイント③「発達の特性に応じた遊びを提供する」一人一人の発達に応じた配慮が必要。

運動習慣作りに大切なのは有能感である。有能感は、運動遊びでの達成経験や他者からの肯定的評価などから育まれ積極性、活動性、運動好きへとつながり、結果、運動する機会の増大となる。

「幼児期の運動に関する指導参考資料」ガイドブックを実践集として紹介。サーキット遊び・遊戯室と廊下を活用した環境設定・新聞紙ボール・遊具を使わない遊びなど。幼児期の運動指導のポイント①遊びを指導する②有能感を高める③環境を工夫する。

研修後半は、スポーツアリーナへ移動し、実技の指導がありました。

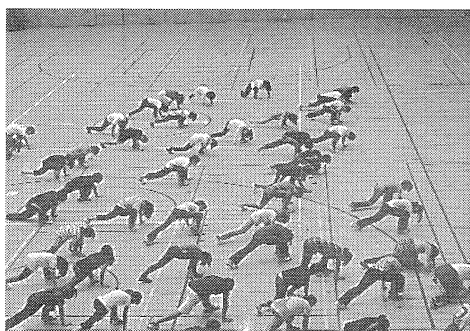
【鬼遊び】年齢・人数・スペース(環境)の違いによってルールを工夫する。沢山の鬼ごっこのバリエーション、実践へのヒントを指導していただきました。

【新聞を使った運動遊び】新聞紙ボール

チームを作りボールの投げ合い。
・新聞紙の棒
棒を遠くに投げてみる。

【なわを使った運動遊び】二人でなわの両端を持ち縦の波や横の波をつくりそれをもう一人が飛ぶ。

【その他の遊び】木とリス(レクリエーションゲーム)どの遊びも子ども達の有能感をはぐくむ、またやりたいと思えるような楽しい実技でした。普段は指導する立場ですが、子ども達の気持ちになつて童心に帰り、夢中で楽しむことが出来ました。



「正しい脳の育て方こころ・体の発達」

平成二十八年一月二十六日に藤沢市藤沢商工会館ミナパークにおいて「正しい脳の育て方こころ・体の発達」というテーマで文教大学教育学部教授、小児科専門医である成田奈緒子先生を講師にお招きし研修会が開催されました。当日は九十人という多数の参加となり関心の高さが伺えました。

成田先生からまず初めに参加者へ世界共通の朝型夜型のテスト5項目が出され今回の研修は子どものみならず大人の私たちの脳、体にもたいへん関係する内容であり大学で教鞭を取れている先生の巧みなお話振りに始めから引き込まれていきました。脳の育ちとしては一番初めにまず生まれてから5歳頃は「からだの脳」Ⅱ生きるための脳を育てることが大事であり、寝て、起きて、ご飯を食べて、体を動かすということが大切でありまさしく乳幼児期の子ども

もが自発的に遊ぶことが前頭葉を活性化するというところでした。

私たちの育ちに関わっている私たちがしっかりと学んでいくことを再確認させられました。そして次に育てる脳は「お利口さんの脳」Ⅱ人間らしさの脳ということでは言語、勉強、コミュニケーションに関わることで六〜一四歳が一番育つ頃となります。そして最終目標として三つ目の「こころの脳」Ⅱ社会の脳、社会での成功、幸せを一〇〜一八歳の間に育てることだそうです。この三つの順番を守りそしてバランスが大切であり、特に基礎となる一番目の生きるための脳をゆっくり育てることが重要になります。その中でも就寝時刻、睡眠時間を力説され、世界共通の小児科医学の教科書に六歳でも一〇時間強となっておりこれだけ寝ないと脳が育たず、育った脳を維持できないとのこと。更に夜一〇時から深夜二時の間に成長ホルモンの分泌量が増えるそうです。そして子ど

編集
後記

会長表彰を受賞された皆様おめでとうございます。ご多忙の中、原稿依頼を快くお引き受けくださいましてありがとうございますございました。なお、早々に原稿をお寄せいただきました先生及び発刊を楽しまお待ちしている会員園の皆様発刊が大変遅れましたことをお詫び申し上げます。

平成二十八年七月七日(木)〜八日(金)に行われます「第五十七回関東ブロック保育研究大会」箱根湯本富士屋ホテルをメイン会場として箱根湯本駅近郊のホテル及び小田原市で行います。

大会は約千二百名の先生方をおもてなしの心で御迎え出来るように企画運営委員及び大会応援委員の先生方のお力を借りて準備を進めております。残された時間はあと少しです。皆さん頑張ります。



第60回

全国保育研究大会 (徳島大会)

平成28年10月12日(水)〜14日(金)